

令和3年度市町民経済計算の概要

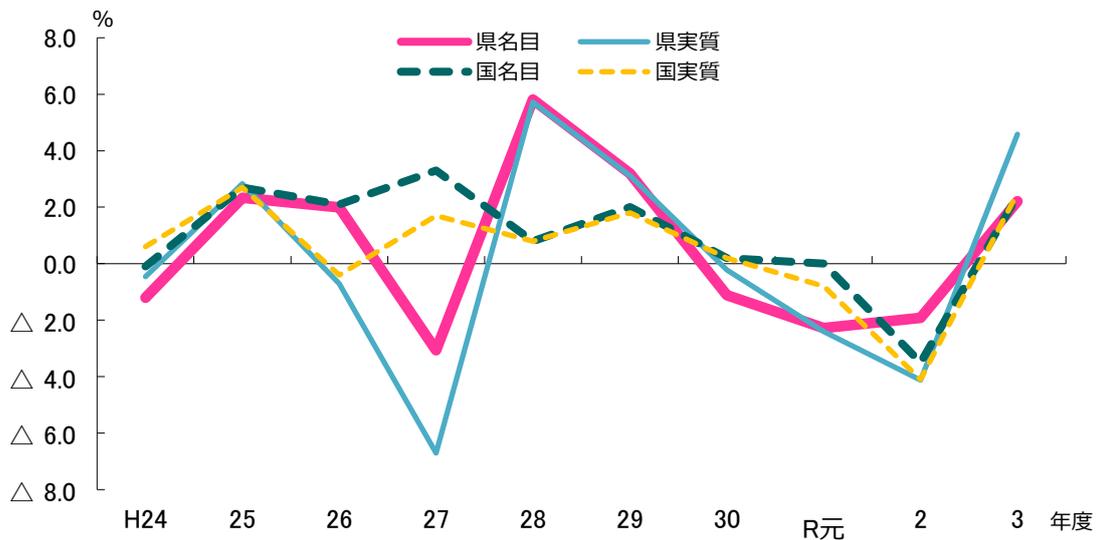
1 令和3年度山口県経済の概況

令和3年度の本県経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の進展等を受け、秋以降、ウィズコロナの考え方の下、経済社会活動の正常化が進んだ。特に建設業及び製造業といった第2次産業が増加したこと等により、県内総生産（名目）は6兆2,366億円、経済成長率は2.2%増と4年ぶりに増加した。実質経済成長率は、4.6%増と4年ぶりに増加した。

県民所得は、県民雇用者報酬が増加したこと等により、1.4%増と4年ぶりに増加した。

なお、県民所得を山口県の総人口で除した1人当たり県民所得は296万0千円となり、前年度の288万9千円と比べて2.5%の増となった。

第1図 経済成長率の推移



第1表 経済成長率の推移

経済成長率	H24	25	26	27	28	29	30	R元	2	3
山口県 (名目)	△ 1.2	2.3	2.0	△ 3.1	5.8	3.2	△ 1.1	△ 2.3	△ 1.9	2.2
(実質)	△ 0.5	2.8	△ 0.7	△ 6.7	5.7	3.1	△ 0.2	△ 2.4	△ 4.1	4.6

2 市町内総生産

(1) 市町内総生産

令和3年度の市町内総生産は、県全体で6兆2,366億円となった。

この市町別分布を県全体に占める割合（以下「全県比」という。）により、A（全県比5%以上）、B（同1%以上5%未満）、C（同1%未満）の3グループに分類したものが第2-1表である。

これをみると、Aグループには下関市、周南市、山口市、宇部市、岩国市、防府市、光市、山陽小野田市の8市が属している。

上位8市町の市町内総生産は、県全体の84.3%を占めており、その人口は県全体の82.3%を占めている。

また、Bグループには、Aグループの8市以外の5市に和木町を加えた6市町が、Cグループには残る5町が属している。

第2-1表 令和3年度市町内総生産の分布状況

(単位:百万円、%)

グループ	市町数	総生産	同左比率	市町名								
A 全県比5%以上の市町	8	5,260,526	84.3 (82.3)	下関市	15.5	(19.0)	周南市	15.4	(10.3)	山口市	15.3	(14.5)
				宇部市	9.5	(12.2)	岩国市	8.3	(9.6)	防府市	7.8	(8.5)
				光市	6.8	(3.7)	山陽小野田市	5.8	(4.5)			
B 全県比1%以上5%未満の市町	6	852,658	13.7 (14.3)	下松市	4.5	(4.2)	和木町	2.1	(0.4)	柳井市	2.0	(2.3)
				萩市	2.0	(3.3)	長門市	1.6	(2.4)	美祢市	1.6	(1.7)
C 全県比1%未満の市町	5	123,388	2.0 (3.5)	田布施町	0.7	(1.1)	周防大島町	0.5	(1.1)	平生町	0.5	(0.9)
				阿武町	0.2	(0.2)	上関町	0.1	(0.2)			

注) 市町名の次の数字は市町内総生産の全県比で、()内は人口の全県比である。

(2) 市町内総生産の対前年度増加率

令和3年度の総生産対前年度増加率は、県全体で2.2%の増となった。

この総生産対前年度増加率を市町別に、A(対前年度増加率10%以上)、B(同0%以上10%未満)、C(同0%未満)の3グループに分類したものが第2-2表で、さらに総生産の増減に寄与した産業を製造業、建設業、その他に分類したものが第2-1図である。

これをみると、9市町において対前年度増加率がプラスとなっている。このうち、対前年度増加率が10%以上となっているのは、製造業が大幅に増加した山口市(13.3%)である。

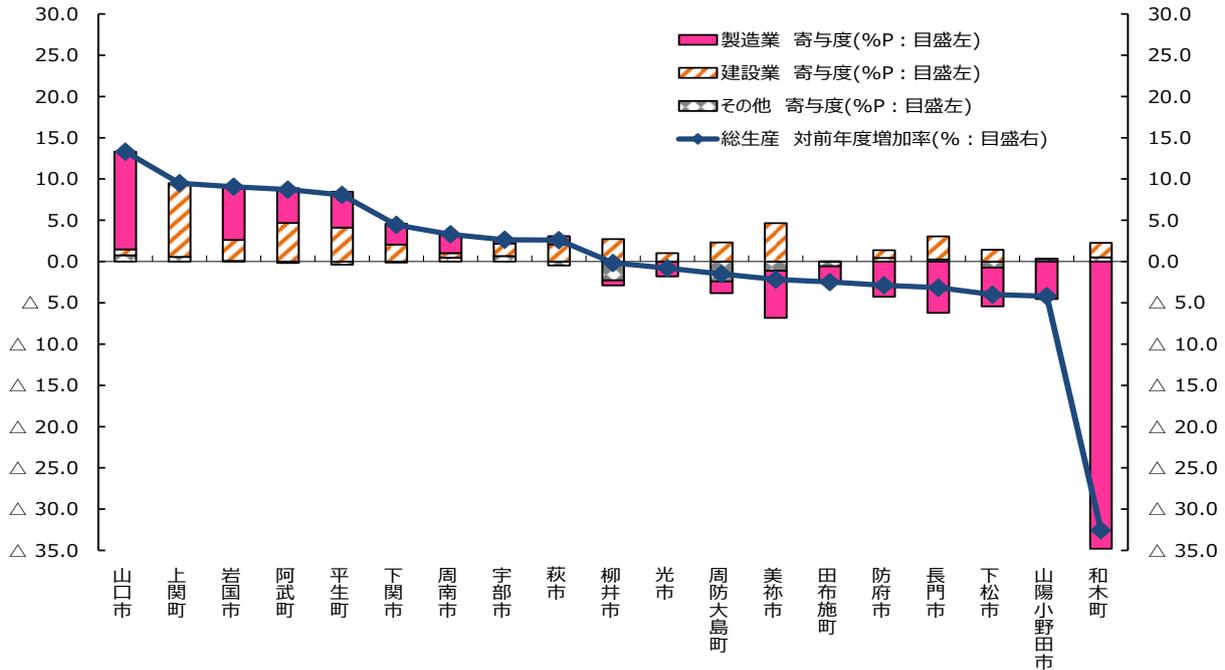
一方、10市町において、対前年度増加率がマイナスとなっている。これは、製造業や建設業等の落ち込みが主たる要因となっている。

第2-2表 令和3年度市町内総生産の対前年度増加率

(単位:%)

グループ	市町数	市町名									
A 増加率10%以上の市町	1	山口市	13.3								
B 増加率0%以上10%未満の市町	8	上関町	9.5	岩国市	9.1	阿武町	8.7	平生町	8.1	下関市	4.4
		周南市	3.3	宇部市	2.6	萩市	2.6				
C 増加率0%未満の市町	10	柳井市	△0.2	光市	△0.8	周防大島町	△1.5	美祢市	△2.2	田布施町	△2.5
		防府市	△2.9	長門市	△3.2	下松市	△4.0	山陽小野田市	△4.2	和木町	△32.5

第2-1図 令和3年度市町内総生産の対前年度増加寄与度



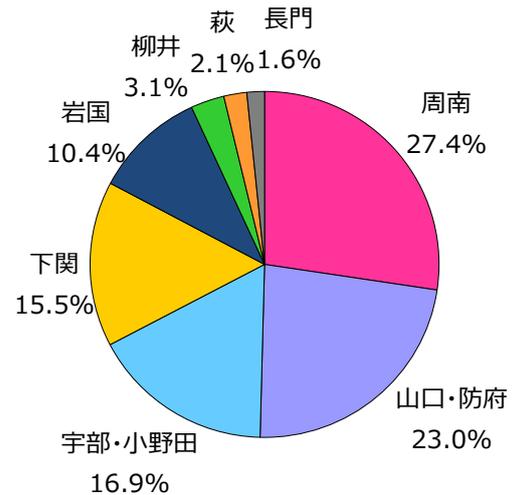
(3) 地域別市町内総生産

令和3年度の市町内総生産を地域別にみると(第2-3表及び第2-2図)、周南地域が1兆7,068億円と最も大きく(全県比27.4%)、以下、山口・防府地域(同23.0%)、宇部・小野田地域(同16.9%)と続いている。一方、最も小さいのは長門地域の1,013億円(同1.6%)となっている。

第2-3表 令和3年度地域別市町内総生産

地域区分	令和2年度		令和3年度		令和3年度 産業別構成比		
	実数	全県比	実数	全県比	1次	2次	3次
	百万円	%	百万円	%	%	%	%
岩国	665,001	10.9	646,234	10.4	0.3	50.5	49.2
柳井	191,926	3.1	194,191	3.1	0.8	19.5	79.7
周南	1,692,390	27.7	1,706,847	27.4	0.1	61.1	38.7
山口・防府	1,339,314	21.9	1,436,879	23.0	0.3	32.1	67.6
宇部・小野田	1,057,160	17.3	1,054,438	16.9	0.4	42.7	56.9
下関	922,602	15.1	963,619	15.5	0.5	33.2	66.3
長門	104,631	1.7	101,317	1.6	3.2	31.3	65.6
萩	129,075	2.1	133,047	2.1	3.2	20.5	76.2
県計	6,102,099	100.0	6,236,572	100.0	0.4	43.2	56.3

第2-2図 令和3年度地域別市町内総生産の全県比



注)産業別構成比は、市町内総生産から輸入品に課される税・関税、総資本形成に係る消費税を除いたものを100として計算している。

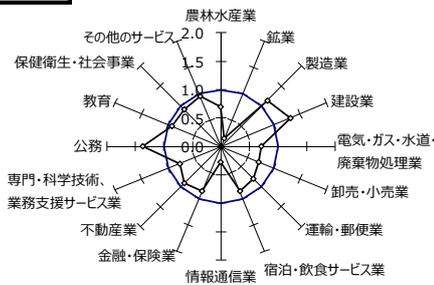
(参考 1) 特化係数からみた地域別産業構造

特化係数からみた令和3年度の地域別産業構造を表したのが第2-3図である。

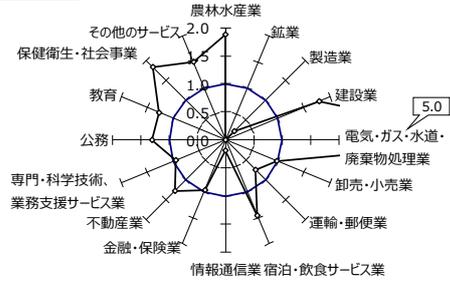
特化係数とは、各地域の総生産の産業別構成比を県の総生産の産業別構成比で除したもので、ある産業の特化係数が1.0を超えていれば、その地域は県に比べ相対的にその産業に特化しているといえる。

第2-3図 令和3年度特化係数からみた地域別産業構造

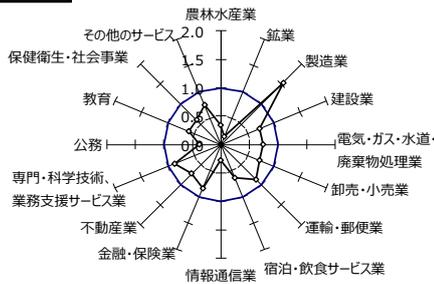
岩国地域



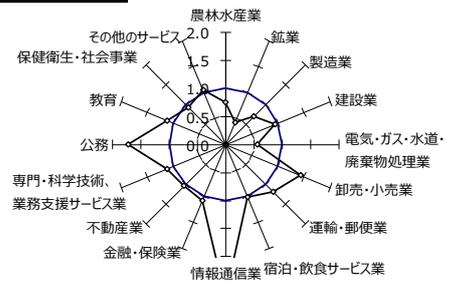
柳井地域



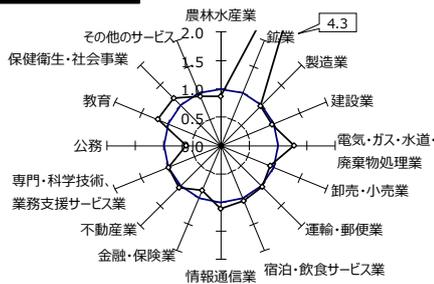
周南地域



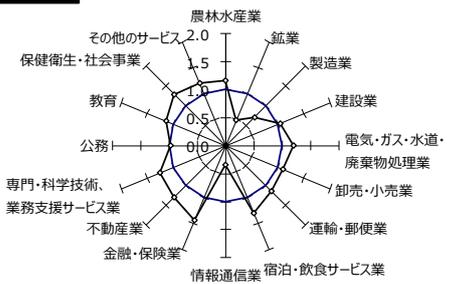
山口・防府地域



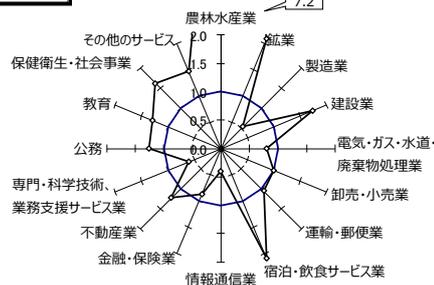
宇部・小野田地域



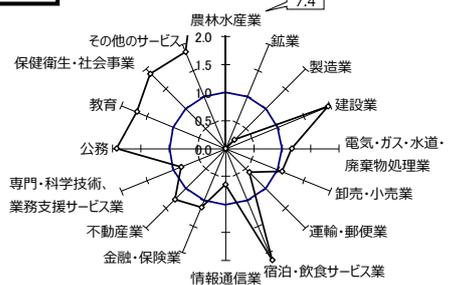
下関地域



長門地域



萩地域



3 市町民所得（分配）

（1）市町民所得

令和3年度の市町民所得は、県全体で3兆9,300億円となった。

この市町別分布を、全県比により、A（全県比5%以上）、B（同1%以上5%未満）、C（同1%未満）の3グループに分類したものが第3-1表である。

Aグループには下関市、山口市、周南市、宇部市、岩国市、防府市の6市が属しており、市町民所得全体の75.5%を占めている。Bグループには下松市など8市町が、Cグループには残る5町が属している。

13市町において、前年度に比べ市町民所得は増加している。これは、雇用者報酬や財産所得の増加が主たる要因となっている。一方、6市町において、前年度に比べ市町民所得は減少している。これは企業所得の減少が主たる要因となっている。

第3-1表 令和3年度市町民所得の分布状況

（単位：百万円、％）

グループ	市町数	市町民所得	同左比率	市 町 名								
A 全県比5%以上の市町	6	2,966,095	75.5	下関市	17.5	(0.1)	山口市	14.6	(0.4)	周南市	14.0	(2.2)
				宇部市	12.1	(0.9)	岩国市	9.2	(1.3)	防府市	8.1	(0.3)
				下松市	4.7	(4.1)	山陽小野田市	4.5	(1.2)	光市	4.4	(9.6)
B 全県比1%以上5%未満の市町	8	871,928	22.2	萩市	2.4	(△0.5)	柳井市	1.9	(△0.5)	長門市	1.8	(△2.1)
				美祿市	1.4	(0.9)	田布施町	1.0	(△0.5)			
				和木町	0.8	(19.7)	平生町	0.7	(△0.0)	周防大島町	0.6	(0.1)
C 全県比1%未満の市町	5	91,994	2.3	阿武町	0.1	(1.5)	上関町	0.1	(△0.9)			

注）市町名の次の数字は市町民所得の全県比で、（ ）内は市町民所得の対前年度増加率である。

（2）人口1人当たり市町民所得

令和3年度の人口1人当たり市町民所得は、県平均で296万0千円となった。

この平均値を100として各市町の水準を指数化し、A（100以上）、B（90以上100未満）、C（80以上90未満）、D（80未満）の4グループに分類したものが第3-2表である。

これをみると、県平均を上回るAグループには6市町が属している。

第3-2表 令和3年度人口1人当たり市町民所得の分布状況

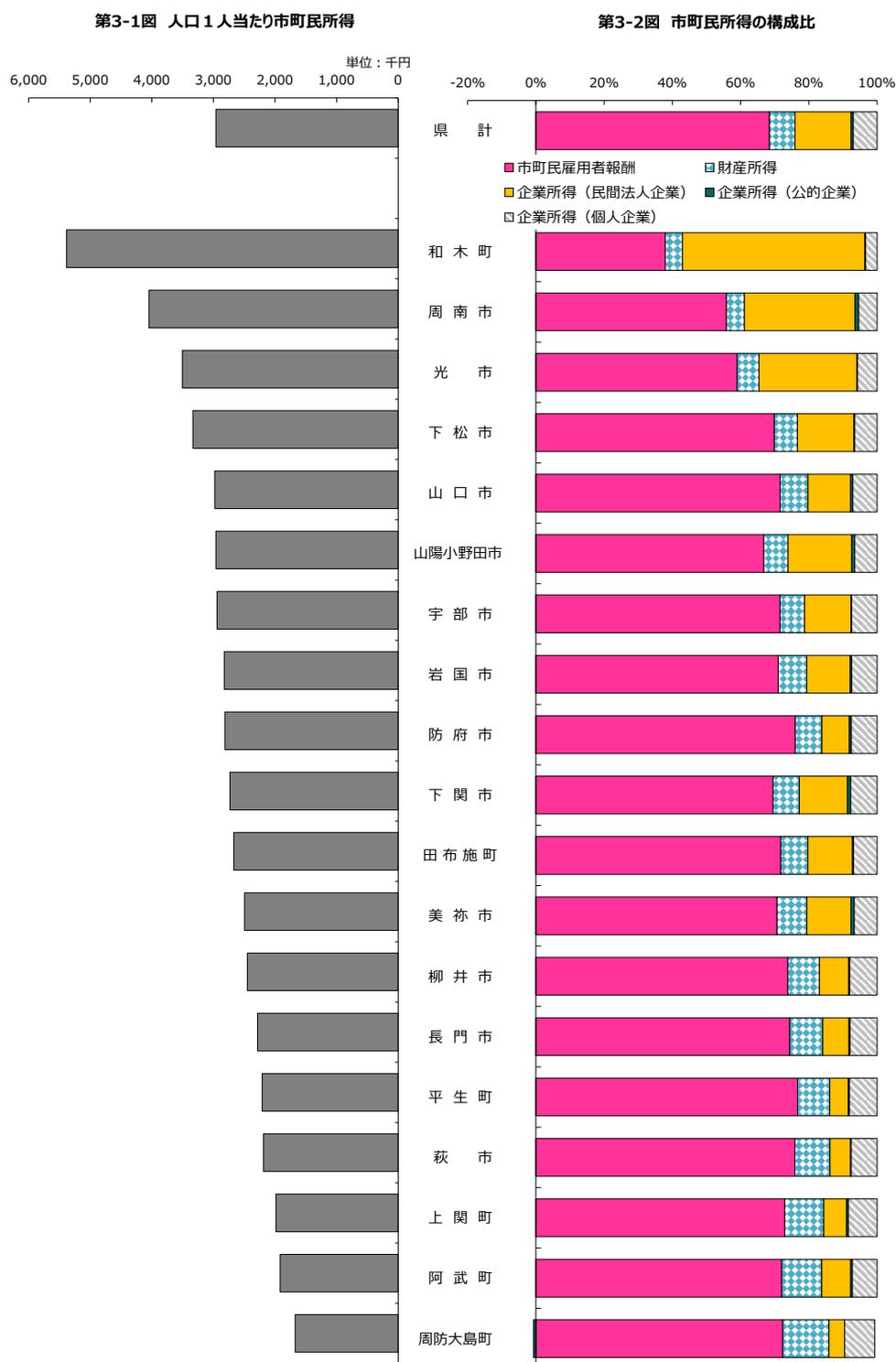
※県平均を100とした場合の指数

グループ	市町数	市 町 名									
A 100以上	6	和木町	181.9	周南市	136.7	光市	118.3	下松市	112.6	山口市	100.6
		山陽小野田市	100.0								
B 90以上100未満	5	宇部市	99.4	岩国市	95.4	防府市	95.0	下関市	92.3	田布施町	90.1
C 80以上90未満	2	美祿市	84.3	柳井市	82.7						
D 80未満	6	長門市	77.1	平生町	74.6	萩市	73.9	上関町	67.0	阿武町	64.8
		周防大島町	56.5								

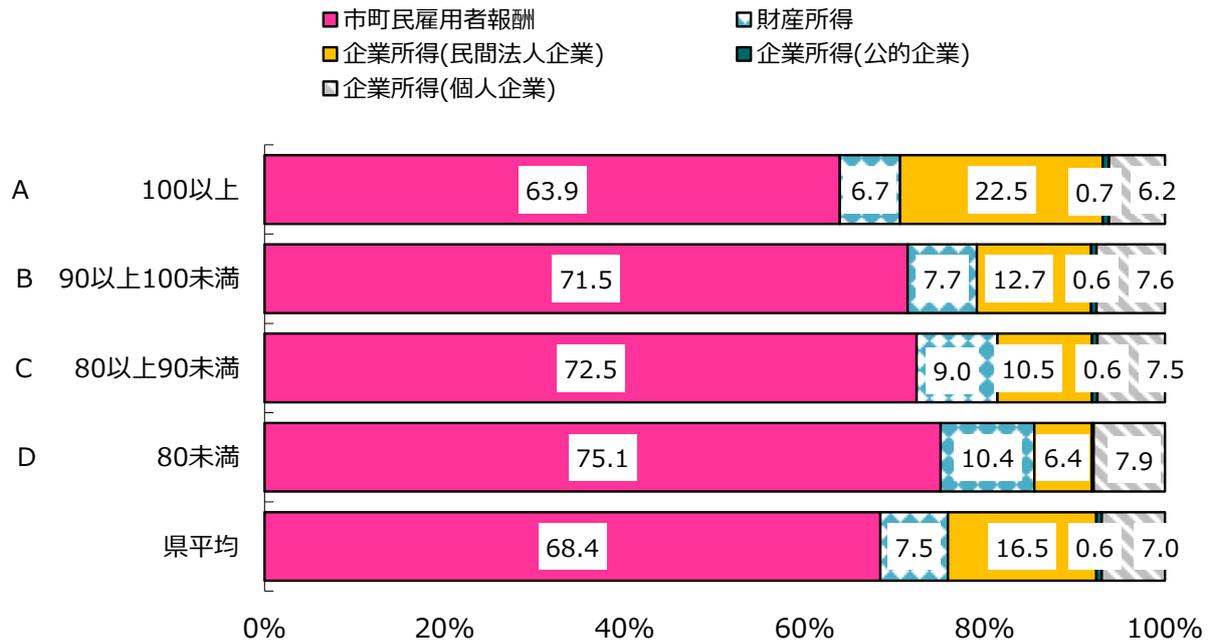
次に、第3-1図、第3-2図において、市町ごとの人口1人当たり市町民所得と市町民所得の構成比を示している。

これをグループ化した第3-3図で見ると、Aグループでは、他のグループに比べて企業所得（民間法人企業）の占める割合が高くなっており、Dグループでは、財産所得及び企業所得（個人企業）の占める割合が高くなっている。

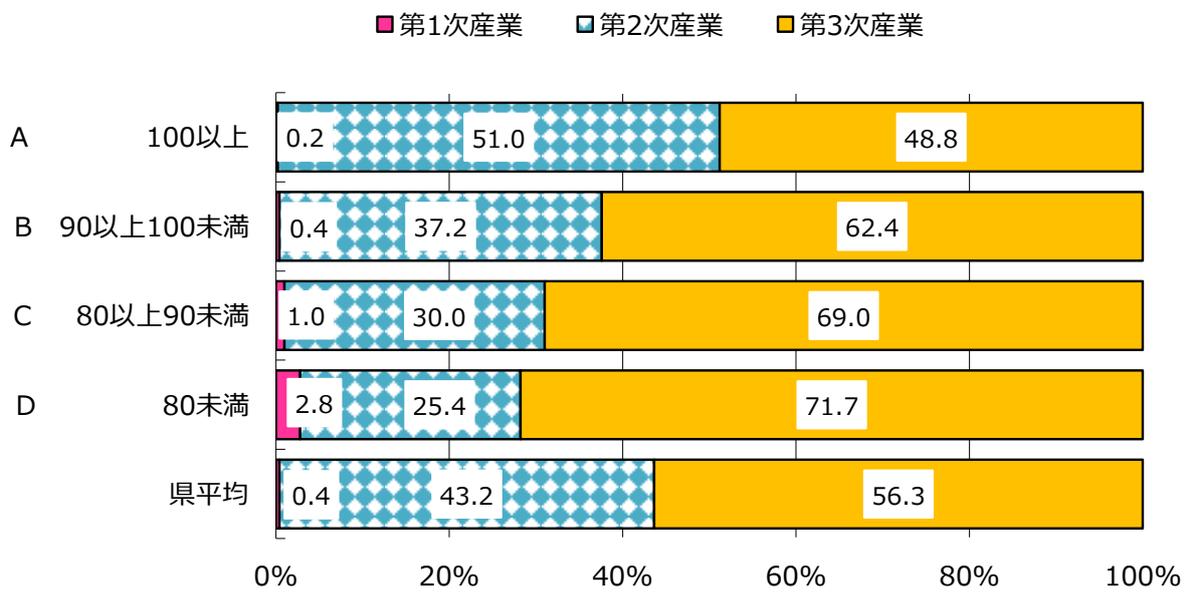
また、第3-4図から総生産の産業別構成比との関連をみると、A及びBグループでは、他のグループに比べて第2次産業の占める割合が高くなっている。



第3-3図 人口1人当たり市町民所得階層別の分配所得の構成比



第3-4図 人口1人当たり市町民所得階層別の総生産の構成比



(3) 地域別市町民所得（分配）

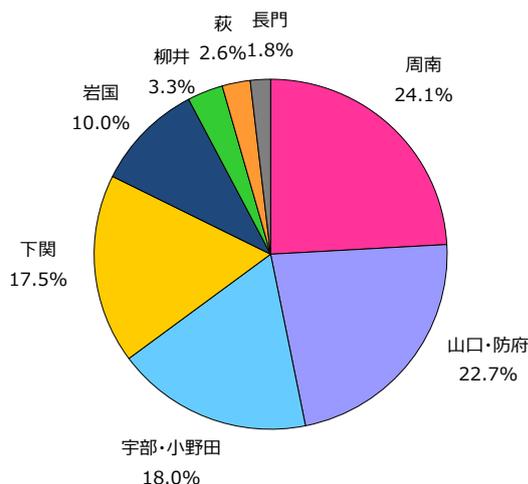
令和3年度の市町民所得を地域別にみると（第3-3表及び第3-5図）、周南地域が9,478億円と最も大きく（全県比24.1%）、以下、山口・防府地域（同22.7%）、宇部・小野田地域（同18.0%）と続いている。一方、最も小さいのは長門地域の726億円（同1.8%）となっている。

次に、人口1人当たり市町民所得をみると（第3-4表）、最も大きいのは周南地域の370万9千円（県平均を100とした場合の指数125.3）で、次いで岩国地域（同99.2）と続いている。一方、最も小さいのは萩地域の216万9千円（同73.3）となっている。

第3-3表 令和3年度地域別市町民所得

地域区分	令和2年度		令和3年度	
	実数	全県比	実数	全県比
	百万円	%	百万円	%
岩国	382,203	9.9	391,915	10.0
柳井	128,847	3.3	128,473	3.3
周南	913,623	23.6	947,786	24.1
山口・防府	889,568	22.9	892,704	22.7
宇部・小野田	700,818	18.1	707,698	18.0
下関	686,652	17.7	687,543	17.5
長門	74,148	1.9	72,598	1.8
萩	101,735	2.6	101,300	2.6
県計	3,877,594	100.0	3,930,017	100.0

第3-5図 令和3年度地域別市町民所得の全県比



第3-4表 令和3年度地域別人口1人当たり市町民所得

地域区分	令和2年度		令和3年度	
	実数	県平均との比較 (注)	実数	県平均との比較 (注)
	千円		千円	
岩国	2,828	97.9	2,937	99.2
柳井	2,153	74.5	2,193	74.1
周南	3,545	122.7	3,709	125.3
山口・防府	2,889	100.0	2,917	98.5
宇部・小野田	2,847	98.5	2,905	98.1
下関	2,692	93.2	2,731	92.3
長門	2,280	78.9	2,283	77.1
萩	2,134	73.9	2,169	73.3
県平均	2,889	100.0	2,960	100.0

注) 県平均を100として各地域の水準を指数化している。